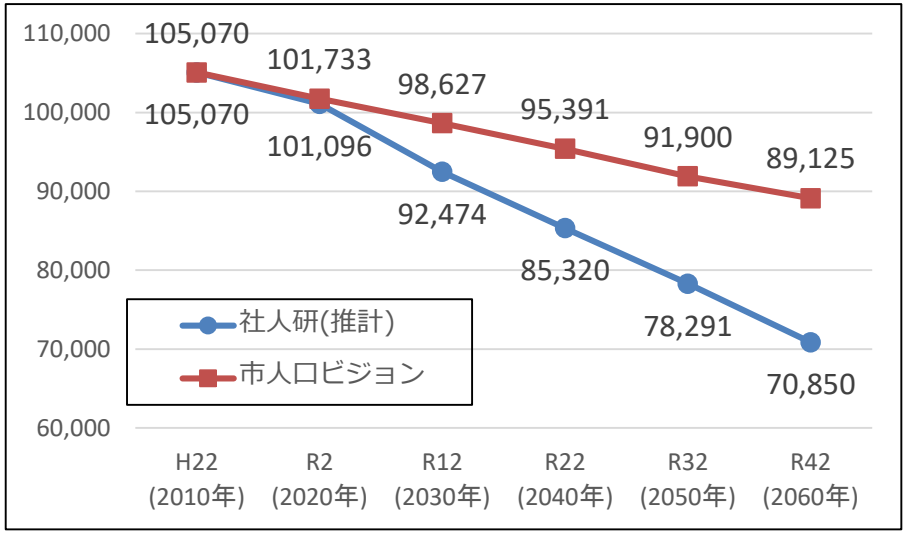
第２期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組成果について

令 和 7 年 8月
鹿屋市政策推進課

1-1　鹿屋市人口ビジョンと総合戦略

鹿屋市人口ビジョン



※社人研：国立社会保障・人口問題研究所（2020国勢調査基準）

＜人口の将来目標＞

2060年に９万人程度の人口を維持する

①自然増減

2030（令和12）年に合計特殊出生率が2.1となるように段階的に引き上げる。

②社会増減

2020（令和２）年から転入・転出を均衡させる。

◆R4策定の人口ビジョンの人口推計は国立社会保障・人口問題研究所（2015国勢調査基準）であるが、本頁の推計人口は、最新の2020国勢調査基準で推計した数値

第２期鹿屋市総合戦略

5つの基本目標 → 13の基本施策 → 82の事業

■基本目標① やってみたい仕事ができるまち

・活力ある農林水産業の振興
・商工業の振興と雇用の促進

■基本目標② いつでも訪れやすいまち

・地域資源を生かした観光の推進
・スポーツによる交流の推進
・移住・定住の推進

■基本目標③ 子育てしやすいまち

・子育て支援の充実
・未来につながる教育の充実

■基本目標④ 未来につながる住みよいまち

・快適な生活基盤づくりの推進
・安全で安心な生活の実現
・自然環境にやさしいまちづくりの推進

■基本目標⑤ ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち

・地域福祉の充実
・健康づくり・生きがいづくりの推進
・共生協働・コミュニティ活動の推進

1-2　人口ビジョンの目標人口と人口推移

人口の推移について

○本市の人口（R1～R6実績値）は減少し続けており、R1から５年間で、約4,000人減少している。
○人口推移は、R1年以降は人口ビジョンの目標値を下回り、R5年以降は社人研の推計値も下回っている。

年	①社人研推計（※１）	②人口ﾋﾞｼﾞｮﾝ目標（※２）	③人口推移（※３）	③人口推移－①社人研	③人口推移－②人口ﾋﾞｼﾞｮﾝ
H27	102,974	103,177	103,608	＋634	＋431
H28	102,462	102,888	103,185	＋723	＋297
H29	101,950	102,599	103,036	＋1,086	＋437
H30	101,437	102,311	102,397	＋960	＋86
R01	100,925	102,022	101,757	＋832	▲265
R02	101,003	101,733	101,096	＋93	▲637
R03	100,307	101,414	100,493	＋186	▲921
R04	99,611	101,095	99,736	＋125	▲1,359
R05	98,916	100,777	98,594	▲322	▲2,183
R06	98,220	100,458	97,574	▲646	▲2,884
R12	93,736	98,627	—	—	—
R42	69,656	89,125	—	—	—

5年間毎の差を各年度に按分して算出

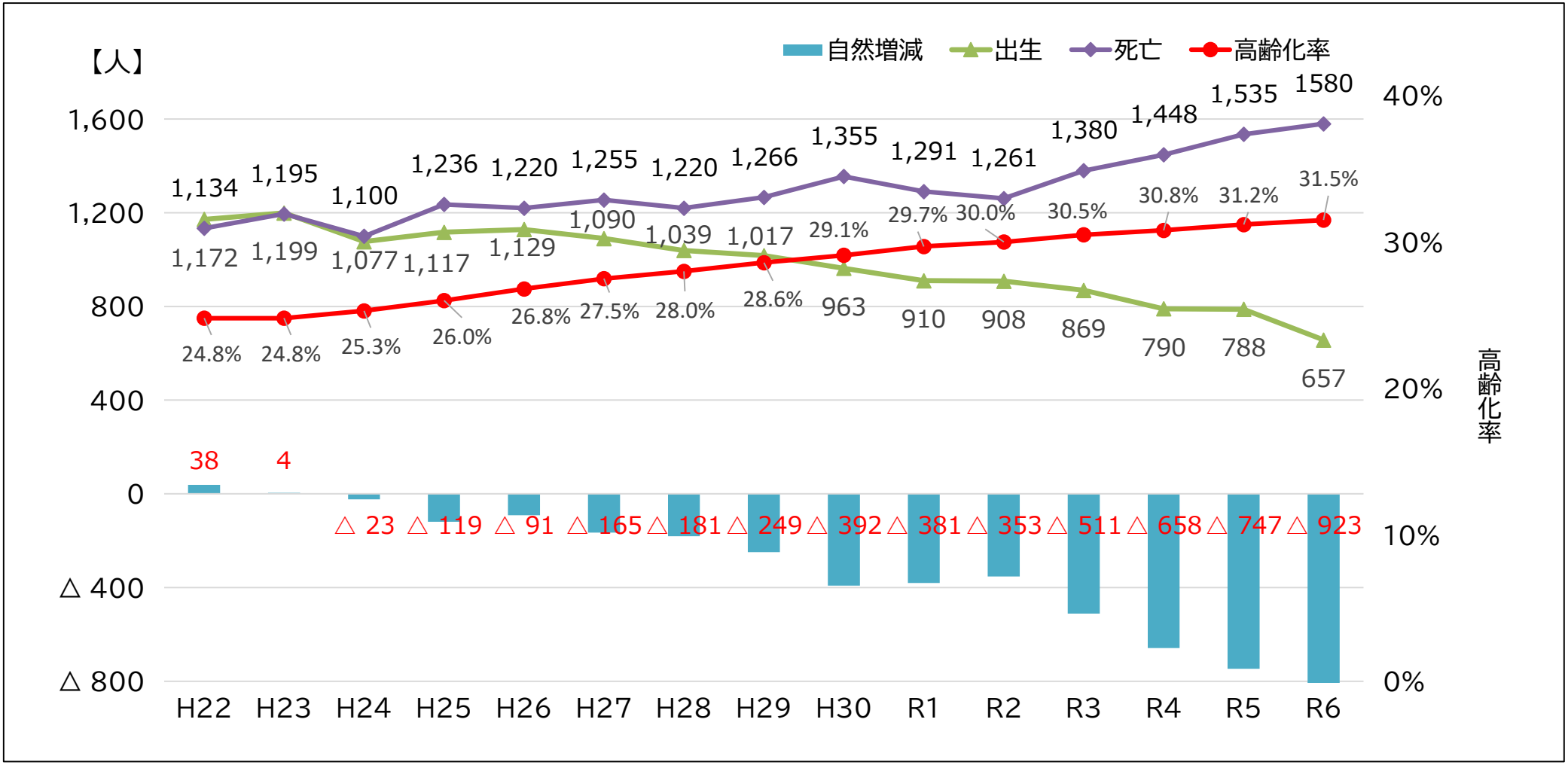
約▲4,000人

※１ 国立社会保障・人口問題研究所が国勢調査（2015）を基に推計した値　　※２ H27(2015）策定の人口ビジョンで定めた目標値
※３ 県人口移動調査(H28～R元、R3～R6)各年10月１日現在、国勢調査（R2（2020））

1-3（1）　人口動態（自然増減）の推移

自然増減の推移

・出生数は、年々減少傾向にあり、Ｒ6年は700人を割り込んでいる。
　⇒母親が減少する少母化や婚姻数の減少（H27:586件⇒R5:384件）が要因と考えられる。
・死亡数は、高齢化の進行とともに、さらに増加が見込まれる。

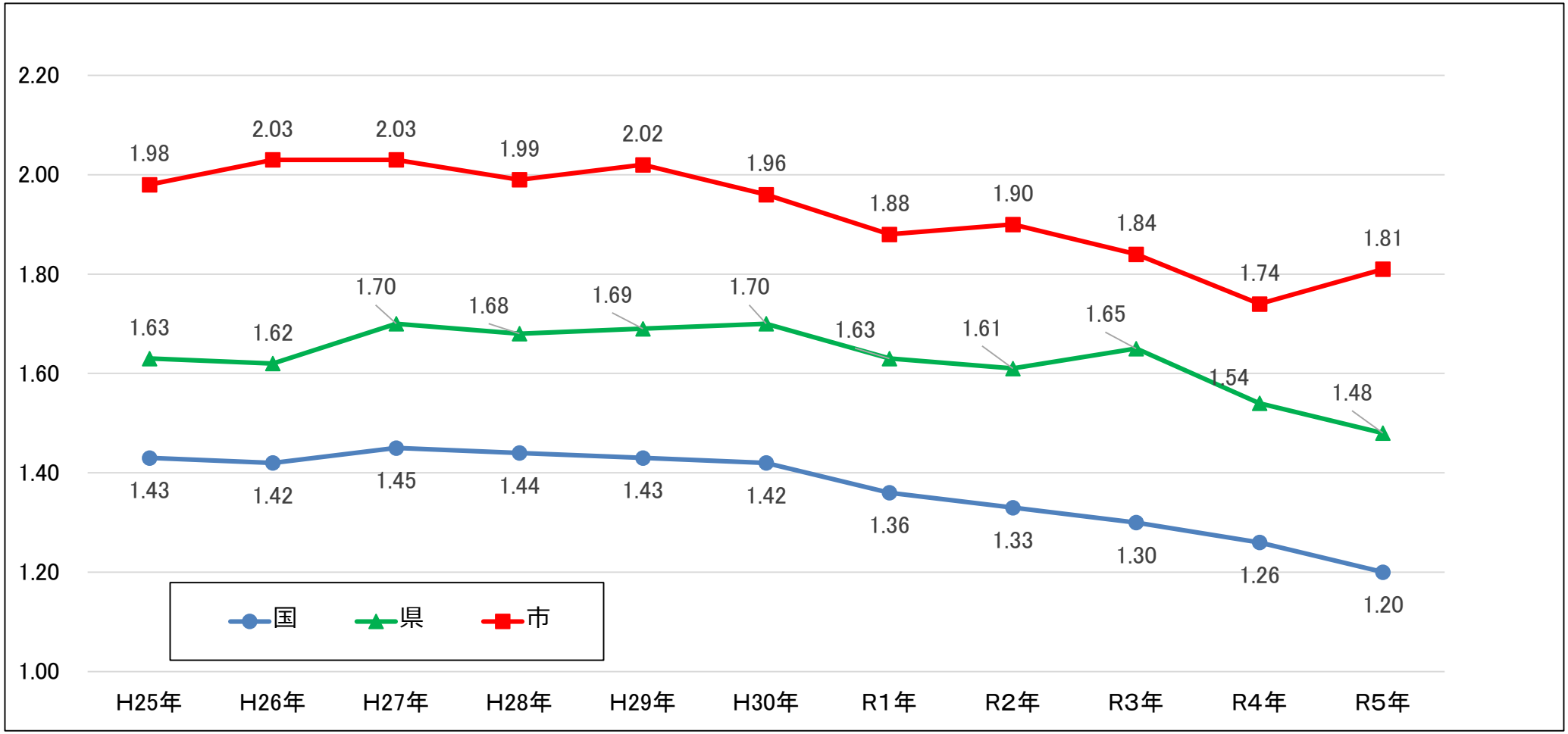


【出典】鹿児島県「人口動態統計調査」、鹿児島県「人口移動調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」

1-3（2）　合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率の推移

・本市の合計特殊出生率は国、県と比較して高い水準にあるが、人口置換水準の2.07を下回っている。



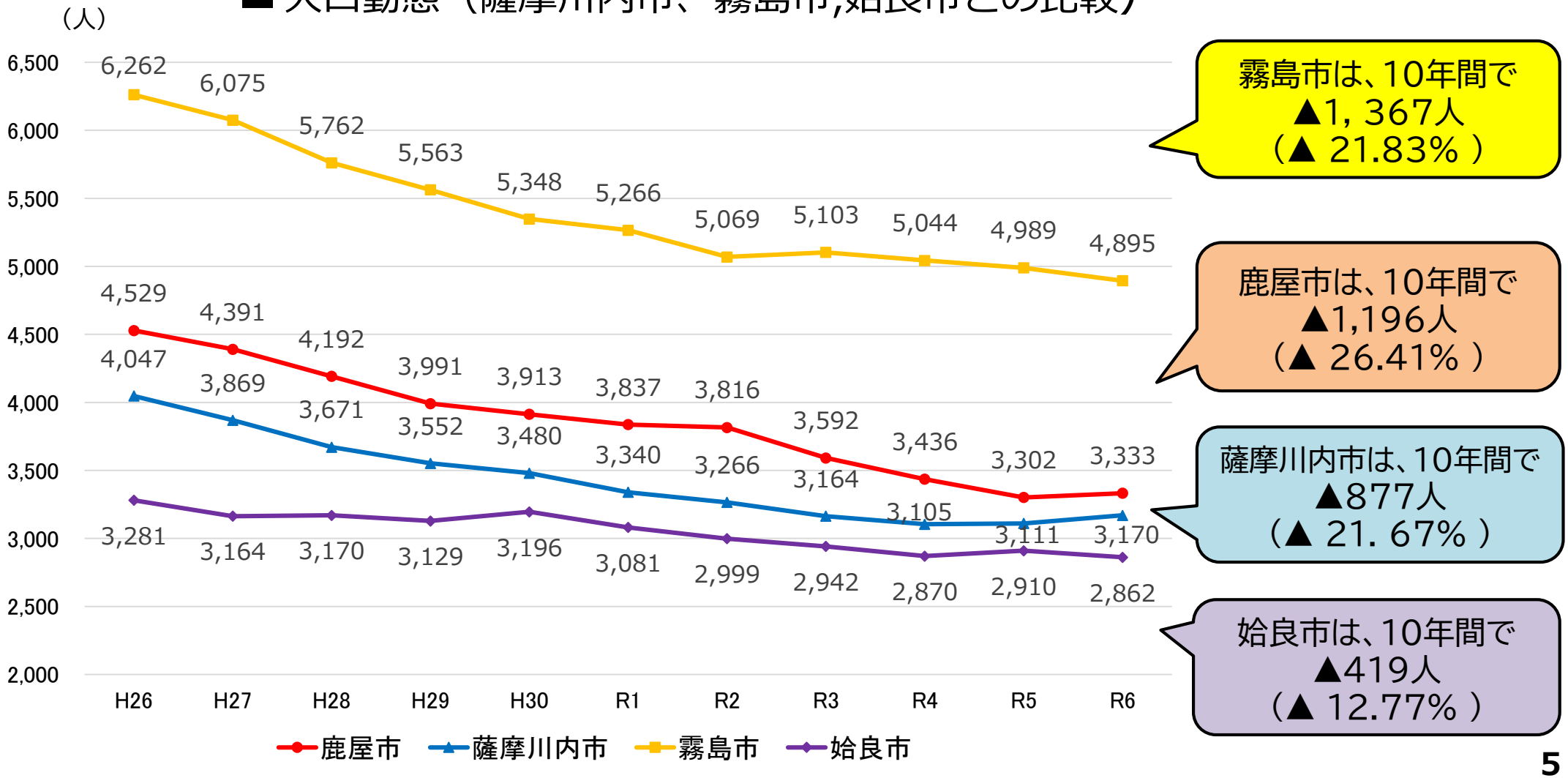
【出典】厚生労働省「人口動態統計」、鹿児島県「人口動態統計調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」

1-4（1）若年女性人口の推移比較

近隣市との比較

・本市は令和２年以降、若年女性人口（20～29歳）が大きく減少している。
・過去10年間の若年女性人口の減少率を近隣市と比較しても最も大きい。

■ 人口動態（薩摩川内市、霧島市,姶良市との比較）



１-4（２）若者（１０～30歳代）の意見（令和６年鹿屋市民意識調査）

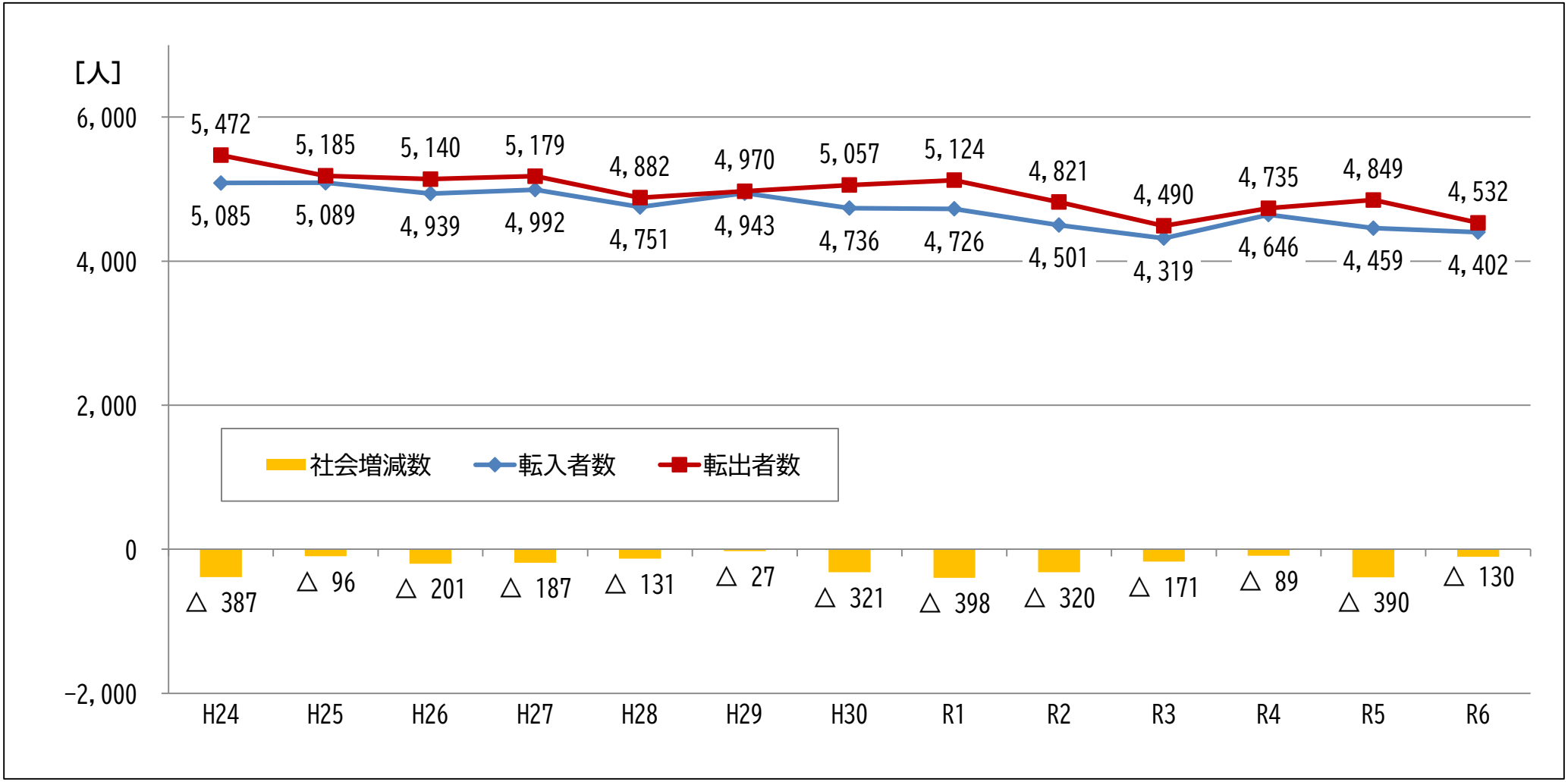
仕　事	○同世代が雇用がないという理由で次々と鹿屋を離れている。（１０歳代） ○賃金の低さや地元企業への理解度の低さから卒業後に鹿屋市へ戻って就職する人が少ない。（２０歳代） ○働きたいけど、希望する職種があまりない。（３０歳代） ○生産量や就業人口を維持していくためには、ダブルワークしやすい地域環境や所得が高く働きやすい雇用環境が必要と考える。（３０歳代） ○進学で市外に出ても鹿屋に仕事の選択肢が増えると戻ってきたいと思う。（３０歳代）
住環境	○バスの便数が増えたらもっと便利なのではないか。（１０歳代） ○余暇を楽しむための施設や店が少なく、休日は市外へ行くことが多いため、企業などの参入を促し、幅広い層が楽しめる娯楽施設を作ってほしい。（２０歳代） ○将来的にかかりつけの町医者がなくなる、もしくは診療科によっては医療センターなどの大病院一択になるのではないかと不安。（３０歳代）
子育て 教　育	○寺子屋など勉強する環境が整っていて成長する場として適していると思う。（１０歳代） ○18歳までの医療費無償化は子育て世帯にとって非常にありがたい。（２０歳代） ○無料で子供を遊ばせることができる施設などを充実させると、子育て支援に力を入れていると伝わりやすい。（３０歳代）

（出典：令和6年鹿屋市民意識調査結果から抜粋）

1-5（1）人口動態（社会増減）の推移（外国人含む）

社会増減の推移（外国人含む）

・社会増減は、転出者数が転入者数を上回る状態が続いているが、10年前から社会増減は、ほぼ均衡している。
・外国人の転入超過により社会減が一定程度、抑えられている。

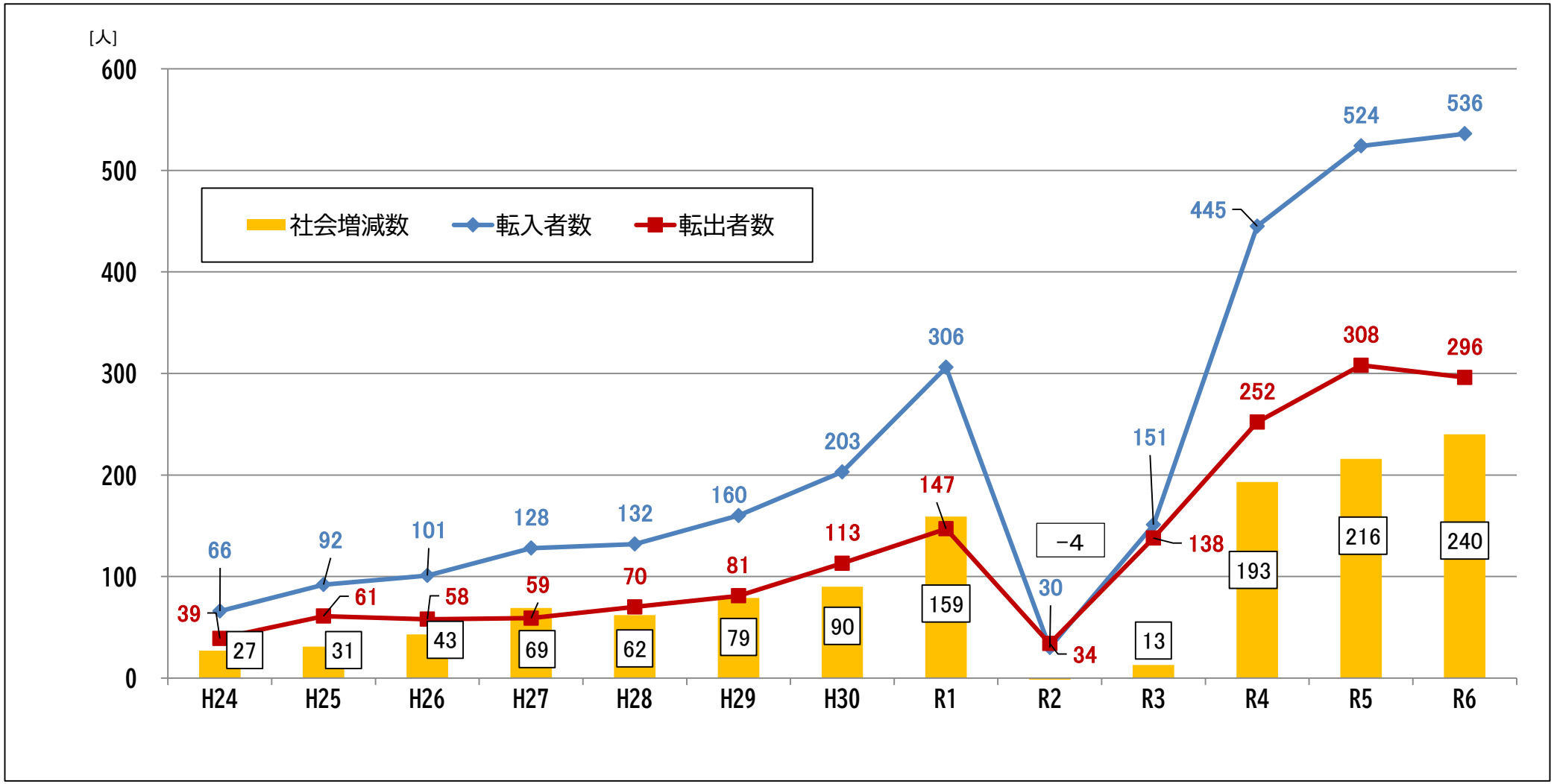


【出典】鹿屋市「住民基本台帳月報」

1-5（2）人口動態（外国人の社会増減）の推移

社会増減の推移（外国人）

・外国人の社会増減は、転入者数が転出者数を上回る状態が続いており、10年前と比べ転入超過幅が広がってきている。（コロナ禍以降に急拡大している。）



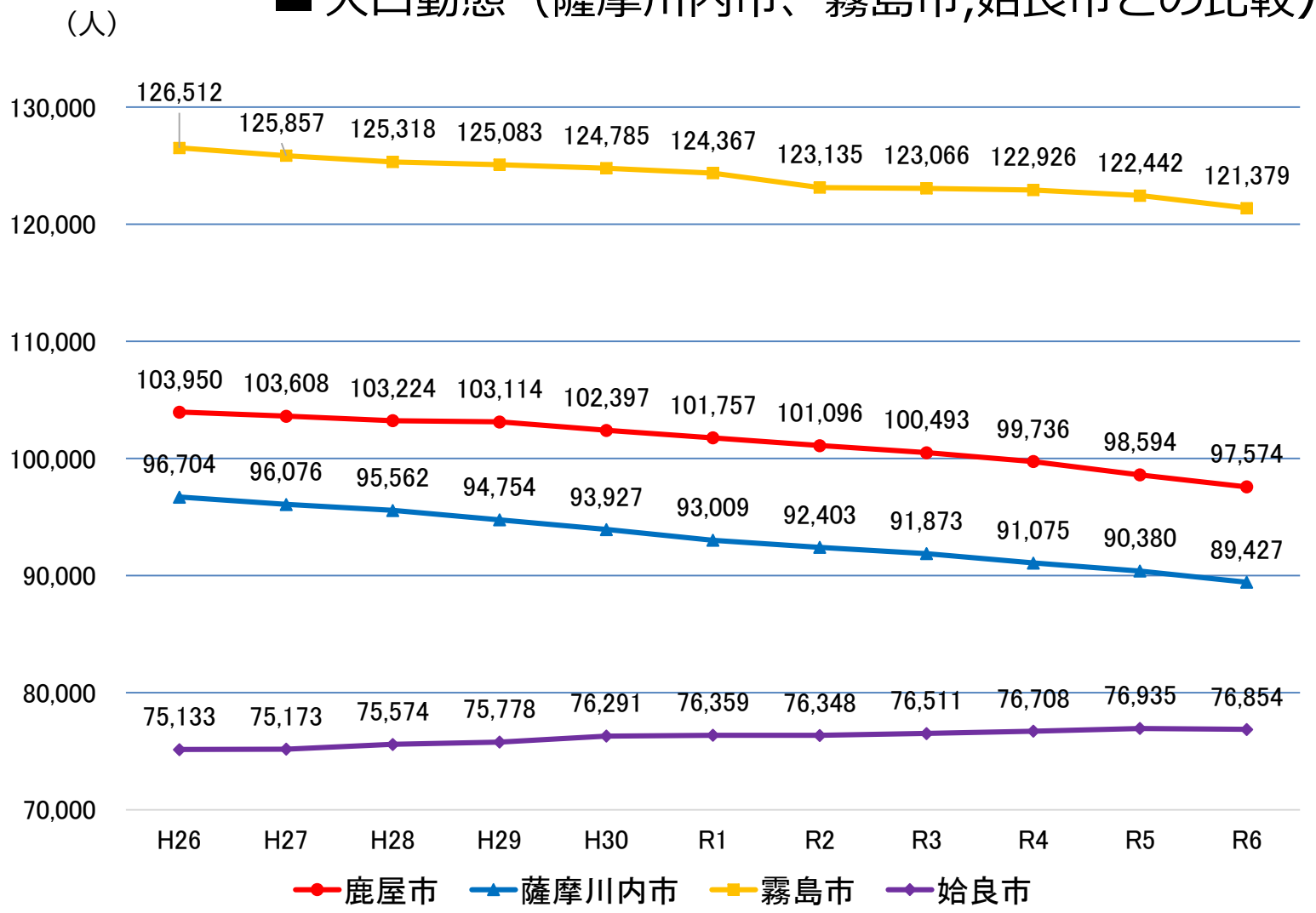
【出典】鹿屋市「住民基本台帳月報」

1-6（1）近隣市の人口推移比較（直近10年間）

近隣市との比較

・直近10年間で人口が増加している自治体は、県内では姶良市のみ
（20～29歳人口減少率：鹿屋市△13.0%、姶良市△2.7%、霧島市△4.3%、薩摩川内市1.7%）

■ 人口動態（薩摩川内市、霧島市,姶良市との比較）



霧島市は、10年間で
▲5, 133人
（▲4.06%）

鹿屋市は、10年間で
▲6,376人
（▲6.13%）

薩摩川内市は、10年間で
▲7,277人
（▲7. 53%）

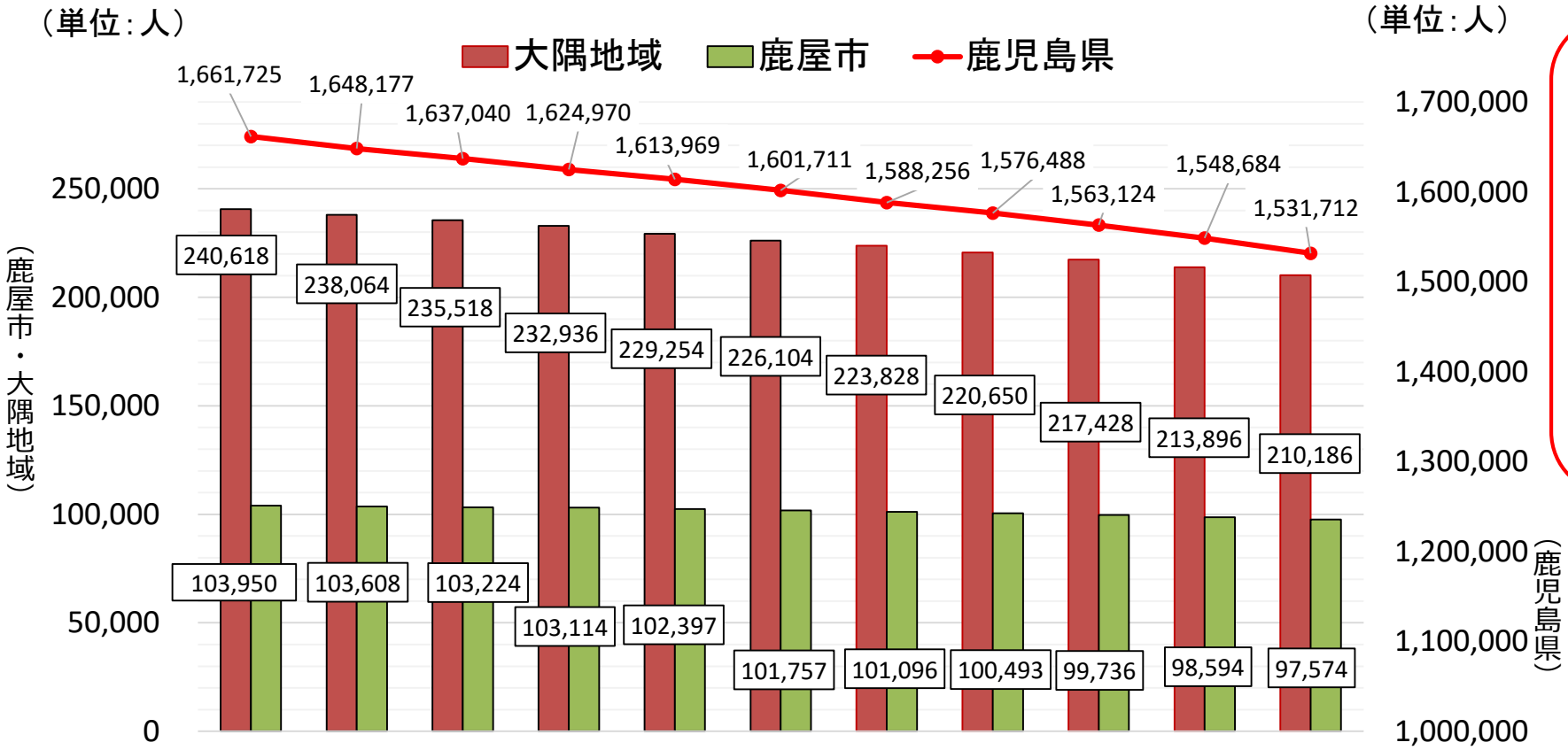
姶良市は、10年間で
1,721人
（2.29%）

1-6（2）大隅地域の人口推移（直近５年間）

大隅地域の人口推移

・大隅半島全体の人口減少幅は鹿屋市よりも大きい。特に３市５町の人口減が顕著
・鹿屋市は、大隅半島全体人口の46.42%を占める。

鹿児島県の推計人口は、**1,531,712人**(令和６年10月1日現在)
10年前より**△130,013人（減少率:△7.82%）**
大隅地域は、**210,186人**(令和６年10月1日現在) 10年前より**△30, 432人（減少率:△12.65%）**
鹿屋市は、 **97,574人**(令和６年10月1日現在) 10年前より **△6,376人 （減少率:△6.13%）**



【参考】
垂水市 （ −21.55% ）
曽於市 （ −17.31% ）
志布志市（ −14.10% ）
大崎町 （ −14.17% ）
東串良町（ −8.04% ）
錦江町 （ −27.10%）
南大隅町（ −27.66%）
肝付町 （ −18.46% ）

（出典：鹿児島県人口移動調査）

2　まち・ひと・しごと創生総合戦略「重要業績評価指標」の達成状況

基本目標	指標数	主な重要業績評価指標	ＫＰＩ達成状況（R6年度）		
			◎ 達成	○ 概ね達成	△ 未達成
基本目標１ やってみたい仕事ができるまち	7	◎農業産出額（耕種+畜産+その他） ◎漁業水揚高 ○創業支援等事業による創業件数	5	2	0
基本目標２ いつでも訪れやすいまち	5	◎宿泊者数 ◎相談窓口を経由した移住者数 ○スポーツ合宿者数	3	2	0
基本目標３ 子育てしやすいまち	5	○子育てに対する環境や支援に満足している市民の割合 ○標準学力検査（NRT）結果における全国との比較 △小中学校における不登校児童・生徒の在籍率	0	4	1
基本目標４ 未来につながる住みよいまち	8	◎防災出前講座参加者数 ○くるりんバス及び乗合タクシーの利用者数 ○一人当たりのごみ排出量	3	5	0
基本目標５ ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	7	◎地域支え合い活動を行っている市民団体数 ○社会全体において男女が「平等である」と感じている人の割合 △生涯学習講座等参加者数	2	4	1
合　計	32		13	17	2

※　未達成は、「小中学校における不登校児童・生徒の在籍率」、「生涯学習講座等参加者数」。

※　見直しが必要な施策はなし。

3　まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標の達成状況

基本目標	指標数 (事業数)	主な事業	成果指標達成状況（R6年度）			
			◎ 達成	○ 概ね達成	△ 未達成	× 見直しが必要
基本目標１ やってみたい仕事ができるまち	19 (16)	◎地方創生テレワーク推進事業 ○和牛生産基盤強化事業 △農地流動化地域総合推進事業	5	8	4	2
基本目標２ いつでも 訪れやすいまち	15 (12)	◎定住促進事業 ○スポーツ合宿まちづくり推進事業 △ふるさと鹿屋応援事業	7	5	2	1
基本目標３ 子育てしやすいまち	19 (18)	◎妊産婦乳幼児健康診査事業 ◎重層的支援体制整備事業 （地域子育て支援拠点事業） ○グローカル教育推進事業	7	11	1	0
基本目標４ 未来につながる 住みよいまち	26 (24)	◎街のにぎわいづくり推進事業 ○総合交通対策事業 ○ごみ減量リサイクル事業	11	14	1	0
基本目標５ ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	13 (12)	◎文化のまち鹿屋魅力アップ事業 ○男女共同参画推進事業 ○みんなで楽しむスポーツライフ推進事業	4	9	0	0
合計（※）	90 (82)		33	47	8	2

※　合計は、各基本目標を跨ぎ重複している指標があるため、各基本目標毎の指標数の積み上げと一致しない場合がある。

3-1(1) R6主な取組内容（基本目標１：やってみたい仕事ができるまち）

■活力ある農林水産業の振興

○生産基盤の強化による生産性の向上

優良な若い繁殖雌牛への更新経費や、鹿屋産の子牛を肥育素牛として導入・保留するために必要な経費を支援。

地域計画に基づく担い手への農地集積や狭小農地の大区画化、耕作放棄地の解消を支援。

【全国和牛能力共進会】

○農業の魅力発信

本市の農業の魅力を最大限に発揮できるよう、「おいもフェスかのや」や「神野地区における体験型農園の開園」など、「農のまちかのや」を実感できる取組を推進。

【おいもフェスかのや】

■商工業の振興と雇用の促進

○起業・創業者支援

市産業支援センターを中心に、商工団体や金融機関等と連携し、起業・創業を支援。

【創業支援】

○多様な学びの機会の提供

コワーキング施設（RINABASE+）を活用し、市内企業と都市圏企業とのネットワークの構築や交流を促進。

【かのや共創ラボ】

【かのや女子起業ラボ】

3-1(2) 成果指標達成状況（基本目標１:やってみたい仕事ができるまち）

基本目標１に紐づく16事業のうち主な事業５つを掲載しています。　※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	成果指標	H30	R6			R6の達成状況等を踏まえ改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
5	和牛生産基盤強化事業	中核農家（20頭以上）割合	19.0%	33%	27.0%	○	・　小規模高齢農家の離農や、若手経営体の規模拡大が困難な状況の中で、自家保留による小規模農家の繁殖母牛の確保及び更新を推進し、経営戸数の減少抑制や担い手への規模拡大を図る。
8	農地流動化地域総合推進事業	担い手への農地利用集積	3,801 ha	8,883 ha	4,420 ha	△	・　農地の貸し借り希望者へ農業委員、農地利用最適化推進委員によるあっせん活動を進め農地の流動化を図る。
12	創業支援事業	創業支援事業による創業者	41件	50件	42件	○	・　女性をメインターゲットに「起業潜在ニーズを持つ者」を対象とした起業支援に取り組み、起業希望者の掘り起こしを図る。 ・　創業応援ネットワーク連絡会議等の関係機関との意見交換や連携を深め、起業者数の増加につながる支援を検討する。
17	地元就職支援事業	雇用マッチング数	２人	30人	45人	◎	・　高校生が参加しやすいように内容の一部を変更し、パンフレットの内容も修正する。
18	地方創生テレワーク推進事業	コワーキングスペース利用者	―	1,000人	5,598人	◎	・　利用の定着を図るため、フリーランス・移住者を呼び込むための連続イベントを開催する。

◎…達成されている　○…概ね達成されている　△…達成されていない　×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…＋40%以下、△…＋80%以下、×…＋80%を超える）

3-2(1) R6主な取組内容（基本目標２：いつでも訪れやすいまち）

■地域資源を生かした観光の推進

○関係人口づくりの推進

本市の魅力を効果的に発信し、認知度向上を図るとともに、ふるさと会やふるさと納税寄付者など、関係人口を増やす取組を実施。

【土用のうしの日問題】

【関東鹿屋会】

○観光分野における広域・官民連携の強化

大隅地域の自治体と民間事業者が一体となって観光・物産情報の発信や広域観光ルートの構築に取り組み、広域観光を推進。

【鹿屋市の観光地】

■スポーツによる交流の推進

○スポーツ合宿・大会の推進

市民がスポーツに親しみやすい環境づくりや、各種大会・スポーツ合宿の誘致、野里運動施設の整備に向けた取組を実施。

【スポーツ合宿】

【野里運動施設（イメージ）】

■移住・定住者への支援体制の充実

○移住・定住希望者の支援

かのや移住サポートセンターでの相談対応やSNS等による移住希望者向けの情報発信、移住就業支援等の各種支援制度の活用を推進。

【移住者相談会】

3-2(2) 成果指標達成状況（基本目標２:いつでも訪れやすいまち）

基本目標２に紐づく12事業のうち主な事業５つを掲載しています。　※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	成果指標	H30	R6			R6の達成状況等を踏まえ改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
19	ふるさと鹿屋応援事業	寄付件数	77,486件	325,000件	164,003件	△	・　アクセス数、転換率等の向上のための基本的施策を徹底し、機会を捉えた価格優位な返礼品の造成（うなぎ・畜肉）やその露出度強化等に取り組む。
22	ばらを生かしたまちづくり推進事業	ばら園入園者数	91,105人	120,000人	64,417人	△	・　地域おこし協力隊と連携したＳＮＳ発信の強化や、都城志布志道路開通関連の民間バスツアー等への売込みなど、新たな取組を行い、誘客促進を図る。
25	大隅広域観光推進プロジェクト事業	大隅地域延べ宿泊者数	497,753人	450,000人	522,101人	◎	・　大隅地域３市５町、県、㈱おおすみ観光未来会議や多様な関係者と一体となり、回遊性の向上による域内の滞在時間の増加、食をテーマにプロモーションを実施すること等により、観光による地域の経済効果の拡大を目指す。
29	スポーツ合宿まちづくり推進事業	スポーツ合宿者数	18,878人	25,000人	24,053人	○	・　かのやスポーツコミッションと連携した新規事業や既存事業の拡充を検討。 ・　鹿屋体育大学や競技団体と連携した着地型合宿・大会の拡充を検討。
31	定住促進事業	相談窓口を経由した移住者数	27人	50人	180人	◎	・　R7年度からかのや移住応援金が新設されたことから、移住フェア等の参加により周知し、更なる移住者の確保に努める。

◎…達成されている　○…概ね達成されている　△…達成されていない　×…見直しが必要
（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）
（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…＋40%以下、△…＋80%以下、×…＋80%を超える）

3-3(1) R6主な取組内容（基本目標３：子育てしやすいまち）

■子育て支援の充実

○妊娠期から出産期における支援の充実

妊婦の初回産科受診料を助成するとともに、日帰り型の産後ケアへの支援を新たに行い、経済的支援とこども家庭センターを核とした伴走型支援を実施。

【伴走型相談支援】

○子育て支援策の推進

親子がつどえる子育て支援施設や放課後児童クラブなど、子育てに対する多様なニーズへの対応や子育てアプリ等による情報を発信。

子ども医療費助成のほか、新たに小・中学校の学校給食費を完全無償化。

【あそVIVA！かのや】

■未来につながる教育の充実

○豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

県総合教育センター研究提携校を中核として、思考力・判断力・表現力の育成を重視した教育を推進。

【オープンスクール】

○国際化社会で活躍できる人材の育成

年齢に関係なく誰もが気軽に英語に親しみ、英語でコミュニケーションをとる楽しさや、異文化への理解や関心を深める場として「イングリッシュカフェ」を定期的に開催。

【イングリッシュカフェ】

3-3(2) 成果指標達成状況（基本目標３:子育てしやすいまち）

基本目標３に紐づく18事業のうち主な事業５つを掲載しています。　※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	成果指標	H30	R6			R6の達成状況等を踏まえ改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
36	妊産婦乳幼児健康診査事業	各種乳幼児健診受診率	91.0%	95%	95.7%	◎	・　母子保健推進員、保健師による未受診訪問の実施に加え、乳幼児健診で×IDによるデジタル通知を取り入れ、電子化を利用した受診勧奨を行う。
39	幼稚園・保育所等給付費	★潜在的待機児童数	87人	36人	31人	◎	・　施設の空き状況を踏まえた提案等を行うことで、保護者にとって、様々な選択が取れるよう努める。
43	重層的支援体制整備事業(地域子育て支援拠点事業)	地域子育て支援拠点事業の個所数	7箇所	９箇所	９箇所	◎	・　子育て世帯の親子が集い、交流を図る施設として、また来たいと思えるような雰囲気づくり（利用者への声掛けや相談対応等）に努める。
47	かのや授業力向上事業	研究提携校オープンスクール参加者	120人	400人	388人	○	・　同時期に他の研修会が実施されており、特に小規模校の学校では同時参加が難しいため、日程も含めて再考する。
56	グローカル教育推進事業	英検３級相当の英語力のある生徒（中学３年生）の割合	34.6%（R３）	50%	39.8%	○	・　台湾の高等学校及び小・中学校との協定により、対面交流や遠隔交流を行う。 意欲喚起に繋がる取組であり、交流を通してどのような力を身に付けさせたいのか目的意識を持てるようにする。

◎…達成されている　○…概ね達成されている　△…達成されていない　×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）
（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…＋40%以下、△…＋80%以下、×…＋80%を超える）

3-4(1) R6主な取組内容（基本目標４：未来につながる住みよいまち）

■快適な生活基盤づくりの推進

○公共交通の充実

輝北地域の日常生活の利便性向上のため、新たに「輝北地区」内及び「輝北地区」から大隅町、大崎町の乗り降りポイントまで、かのや市乗合ワゴン（輝北線）を運行。

【かのや市乗合ワゴン（輝北線）】

○市街地中心地域の活性化

まちづくり団体・地元商店街等との役割分担や連携によるまちのにぎわい創出などにより市街地中心地域を活性化。

【かのやMeets2024】

■自然環境にやさしいまちづくりの推進

○地球温暖化への対応

家庭用の太陽光発電設備等への補助や脱炭素に関するワークショップの開催、湯遊ランドあいらのリニューアルなど、「ゼロカーボンシティかのや」の実現に向けた取組を推進。

【高校生ゼロカーボンプロジェクト】

【湯遊ランドあいらリニューアル】

■安全で安心な生活の実現

○防災対策の充実

耐震支援制度等の学習会の開催や耐震改修の補助率を拡充し、防災意識の向上と住宅の耐震化を促進。

○空き家の適正管理の推進

空き家に関する個別相談会や危険空き家の解体補助などを通して、管理責任意識の醸成と危険空き家を解消。

【空き家セミナー&個別相談会】

3-4(2) 成果指標達成状況（基本目標４:未来につながる住みよいまち）

基本目標４に紐づく24事業のうち主な事業５つを掲載しています。　※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	成果指標	H30	R6			R6の達成状況等を踏まえ改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
59	街のにぎわいづくり推進事業	市街地イベント等参加人数	25,590人	31,000人	100,399人	◎	・　中心市街地の低未利用地について、イベント等での駐車場利用ができないか検討を行う。
60	総合交通対策事業	くるりんバス及び乗合ワゴン利用者数	36,210人	46,000人	41,193人	○	・　路線バスの廃止や減便を補うため、くるりんバスの運行ルート、運行時刻等の見直しを行う。乗合ワゴンの拡充及びAIフルデマンド化を検討し、交通空白対策に努める。
72	災害につよいまちづくり事業	防災出前講座の参加者数	377人	600人	1,248人	◎	・　ＦＭかのやの試験放送等を活用し、講座の受講促進に努める。
79	環境対策推進事業	★肝属川の環境基準（BOD）	3.2 mg/ℓ	3.0 mg/ℓ	1.7 mg/ℓ	◎	・　引き続き大隅国道河川事務所や保健所等と連携し水質監視を行うとともに、住民・事業所等へ水環境保全に関する啓発、合併処理浄化槽の設置促進を図り、水質改善に取り組む。
81	ごみ減量・リサイクル事業	★一人当たりごみ排出量	843 g/日	780 g/日	826 g/日	○	・　引き続きごみの量の集計・分析を行うとともに、住民へのごみ分別の周知徹底を行う。 新たに、企業と連携したごみ減量に向けた取組を検討する。

◎…達成されている　○…概ね達成されている　△…達成されていない　×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）
（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…＋40%以下、△…＋80%以下、×…＋80%を超える）

3-5(1) R6主な取組内容（基本目標５：ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

■地域福祉の充実

○包括的相談支援体制の構築

市民の複合化・複雑化したニーズに対応する重層的支援体制を整備し、「属性を問わない相談支援」「社会参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施。

■共生協働・コミュニティ活動の推進

○人権の尊重と男女共同参画の推進

人権の尊重や男女共同参画社会の実現を目指すため、関係機関と連携した周知・広報や啓発活動を実施。

また、新たに性的マイノリティのカップルを婚姻に相当すると認める「パートナーシップ宣誓制度」を導入。

○地域コミュニティの構築・充実

町内会の活性化を図るため、モデルとなる町内会において、「町内会アプリ」を活用した事務の効率化や負担軽減の効果検証を実施。

■健康づくり・生きがいづくりの推進

○鹿屋体育大学と連携した地域活性化

鹿屋体育大学と「スポーツ実施率日本一共同宣言」を行い、健康増進の取組やスポーツ合宿の推進、スポーツを通した地域活性化など、連携した取組を推進。

○生涯学習・社会教育の推進

大隅総文祭を初開催し、文化活動の振興と生徒相互の交流を実施。

また、鹿屋の魅力を再発見し愛着を持ってもらうため、鹿屋の歴史、文化、自然、風土などを学べる「かのやふるさと検定」を実施。

【パートナーシップ宣誓制度】

【スポーツ実施率日本一共同宣言】

【かのやふるさと検定】

【大隅総文祭】

3-5(2) 成果指標達成状況（基本目標５:ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

基本目標５に紐づく12事業のうち主な事業５つを掲載しています。　※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	成果指標	H30	R6			R6の達成状況等を踏まえ改善・強化（工夫）している内容
			実績	目標	実績	評価	
82	重層的支援体制整備事業（高齢者福祉関係事業）	高齢者の運動サロン等への参加人数	107人	3,000人	2,185人	○	・　サロン参加者の状況に応じ新たな運動メニューの提案や課題を抱えたサロンへの積極的な介入を実施する。
83	みんなで楽しむスポーツライフ推進事業	生涯スポーツイベント参加者数	4,203人	5,000人	3,328人	○	・　体力や年齢、目的等に応じてスポーツに親しむ機会を企画、開催する。 ・　鹿屋航空基地の滑走路をコースとしたランウェイウォーキング大会や国体レガシー事業を開催する。
84	文化のまち鹿屋魅力アップ事業	文化活動に関わる人の数	5,000人/年	6,500人/年	8,160人/年	◎	・　市広報、SNS等を活用した情報発信の充実を図る。
88	男女共同参画推進事業	社会全体において男女が「平等である」と感じる人の割合	14.9%	20.0%	16.9%	○	・　事業所等の訪問を積極的に行い、実状を把握する。また、専門講師を派遣するお届けセミナーの実施を強化し、ジェンダー平等や仕事と家庭生活を両立できる就労環境づくりを推進する。
90	町内会経費	町内会加入率	72.2%	73.0%	65.4%	○	・　町内会の今後の在り方の検討と併せて、町内会長ヒアリング等を実施し、コミュニティ関連計画の見直しに向けて骨子案を作成する。

◎…達成されている　○…概ね達成されている　△…達成されていない　×…見直しが必要
（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）
（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…＋40%以下、△…＋80%以下、×…＋80%を超える）